

短期入所 さらい

コロナウィルスの感染者が増減するたび、利用者さんの調整を行いながら支援をしています。さらい利用のお馴染みさんもでき、皆さん、お泊りを楽しみにされています。もちろん緊急対応も行っていて、はじめまして！の利用者さんもいらっしゃいます。急なご家族の入院等でご家族の方も大変な中、ご本人様も不安な気持ちのまま、さらいに到着されますが、安心して眠りにつけるよう、職員一同支援させていただいている。



グループホーム あんど

4月1日に関所となったグループホームです。職員ともども、すっかり慣れ、安心して過ごせる場所となっています。皆さんの特性等も理解でき、利用者さん同士の関係性も芽生え、色々な発見をしながら過ごしています。毎月1回、医師に往診していただき、言葉で伝えづらい利用者さんの健康管理を行っています。利用者さんにとっても、職員にとっても、そしてご家族の方々にとっても安心材料の一つとなり、その時にご家族同士で会話ができる利点です。今後も安心・安全な日々が過ごせるよう、皆で協力していきたいと思います。



休みの日には皆でお出かけ！



生活するって、こんなに色々なことがあるんだなあと思いながらの半年でした。
特に排泄コントロールに力を入れて、体調管理をしています。



お知らせ

新しく、施設整備を行っています。

場所は二階の窓から見える位置で、直線距離ではすぐ近くですが、くるりとまわらなければならないので、既存の施設から徒歩5分位。

生活介護20名、短期入所8名、福祉避難所を想定しています。生活介護は現時点で定員となっているため、短期入所は必要とされている方がたくさんいらっしゃるため、そして、障害のある方が有事の際に一般の体育館に避難できるわけがなく、そういった方々のお役に立てれば、という思いで、福祉避難所を創設します。

コロナ禍で先が見えない中、不安もありますが、できることを、できる時に、やっていければ、と職員一同がんばります！

＜編集後記＞ こうして通信を作成すると、制約のある中で、安全面での配慮をしながら、次々と色々な企画をしてくれる職員がたくさんいて、すごいなあ、ありがたいなあと思いました。利用者さんの豊かな生活の為に、知恵を絞りながら工夫を重ね、ともに楽しむことができるって素晴らしい！

はーとわーく通信

令和4年11月発行 第17号

発行者： 社会福祉法人はーとわーく

〒371-0823

群馬県前橋市川曲町176番地1 TEL027-289-3514 FAX027-254-0185

Email : hatowaku@wonder.ocn.ne.jp

HP : http://hatowaku.or.jp/



楽しい運動会！

はーとわーくのすぐ近くに群馬医療福祉大学があります。大学のご厚意により、アリーナをお借りすることができ、生活介護「ぶれも・えるも」で運動会を行いました。アリーナはとっても広くて、その場所にいるだけでワクワク感でいっぱいになります。その上、当日は学生さんが20~30人、一緒に参加してくださいました。車いすを押したり、玉入れのカゴを持ったり・・・楽しいひと時を過ごすことができました。



まずは、アリーナの広さにびっくり！そして、いろいろな用具があって更にびっくり！！大玉転がしの玉も当日お借りしました。その他にも、障害のある方が楽しめる「フライングディスク」「ボッチャ」「モルック」等様々な用具を見たり体験することができました。



大学の先生と学生さんがボッチャを教えて下さいました。



それぞれのやり方で大玉転がしや玉入れを行いました。車いすの方の玉入れは筒を使ってカゴに入れました。職員対抗大玉転がしでは、本気の職員の姿をみることができました。そして最後はみんなで輪になって踊りました。

生活介護 ぶれも

夏には夏祭り、秋には運動会、そしてハロウィン。

それぞれの季節を感じながら活動を行っています。予定していた外出がコロナの感染拡大により、できなくなることもあります、まずは、安全・安心を確保しつつ、その中で、楽しめることをみつけながら、充実した一日を過ごせるよう、職員と一緒に工夫しながら過ごしています。



生活介護 えるも

夏にはめんたいパークに出かけ、夏祭りも楽しみました。秋はコスモスの咲き誇る公園を皆で散策。敷島公園で松ぼっくりを集めてリースも作りました。また、群馬福祉医療大アリーナでの運動会では、色々な種目に挑戦しました。大きな福祉バスを借りてぐんまこどもの国へも出かけました。お天気も良く広々とした園内をゆっくり楽しみ、お弁当やおやつを食べて秋を満喫しました。感染には十分注意しながら活動を行っています。



居宅介護 ここみ



ようやく感染者が減ってきた・・・と安心していたら、また、増加し、警戒レベルも上がってしまいました。こういった状況に柔軟に対応しながら、居宅にいらっしゃる利用者の方々に安心して過ごしていただけるよう、毎日走り回っている現状です。どんな警戒レベルであっても、支援が滞らないよう、感染対策を行いながら「継続」していきます。



研修の内容

7月・・・身体障害について

＜研修後の感想＞・どんな障害や困難な状況にも共通することだと思うが、それぞれの方々に対しての障害だけでなく、背景についての理解も深めることができた。改めて感じた。

研 8月・・・接遇について

＜研修後の感想＞・基本的なことですが、日々の支援の中で当たり前になりすぎてしまうことがあるので、気持ちを新たにするためにも、定期的に研修を受け、信頼関係をしっかりと築いていけるようになりたいと思った。

9月・・・防災

＜研修後の感想＞・被災してからでは遅いので、シミュレーションをして危機意識を高めておくことが必要だと思った。

答 10月・・・緊急時の対応について

＜研修後の感想＞・不完全な考え方だったので、再度確認することができた。スマートフォンのアプリが活用できることを知ることができた。



9月の防災研修では起震車による地震を体験しました。関東大震災から熊本地震等色々な地震を体験できました。こんなに大きく揺れたら、私たちは利用者さんをどうやって守れるのだろうと考えさせられました。

放課後等ディサービス みらい

少し落ち着いたと思われたコロナウィルスの感染状況ですが、ここにきて、また増加傾向にあり、なかなか感染終息とはなりません。それぞれが通う学校からの連絡も頻繁で、陽性者や濃厚接触者情報が入り、コロナウィルス感染者の増減に大きく左右される「みらい」です。そんな中でも、一人一人の成長と充実した日々を保障できるよう、職員は毎日話し合いをしながら支援を行っています。

